

第95号

2026年3月

認定特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp <https://www.muginokai-koppe.com>

目次	2026年共同連宮城大会	飯嶋 茂	… 1p
	なぜ障害福祉事業所で不正がなくなるのか	松木 知徳	… 3p
	仙台いやすこ歩き (河北夕刊より)		… 6p
	我が家レポート	ひろむの妹	… 8p
	哲也の日々	阿部 哲也	… 9p
	新聞記事より 黒川こころの応援団の紹介		… 10p
	多夢多夢舎中山工房 中島さんの絵の紹介		… 11p
	健康診断	氏家 大介	… 12p
	ちょこっと書初め	大友 芽央	… 12p
	2026年の努力	阿部 央希	… 12p

第41回NPO法人共同連全国大会 in 宮城、参加お願いします。

大会日程 2026年8月29日(土)午後・30日(日)午前

場所 フォレスト仙台 仙台市青葉区柏木 1-2-45

現在、宮城大会実行員会で大会開催に向けた準備を進めています。大会テーマは、以下のように決まりました。

「こわれゆく」福祉の中で、ともに働く・ともに生きるをどうする
～わたしを真ん中において～

ここ数年、障害福祉において様々な「不正」が起きています。また、現場の実態とそぐわない制度の運用もなされています。そのには、障害のあるなしにかかわらず一人一人が置き去りにされているのではないのでしょうか。

テーマにはそんな思いが込められています。

開催趣意書を次に載せます。

第41回共同連全国大会 in 宮城大会は、障害のある人もない人も共に働き、地域で暮らす社会を広げることを目的とした公開イベントです。

共同連は障害のあるなしにかかわらず、共に働く事業所の連合体です。1984年の結成以来、『共に助け合う労働』『それぞれが自立できる分配』『みんなで創り上げる運営』『社会に通用する仕事』を理念に活動してきました。

毎年行われてきた全国大会において、障害のある人ない人の共に働く関係を大切にしつつ、引きこもり・ホームレス支援等、社会的に弱い立場にある人も含めた、これまでの一般就労や福祉的就労とは異なる新たな道を拓げていくことの必要性を、全国に訴えてきました。

宮城県においては2010年に共同連全国大会を開催しましたが、それ以来なかなか開催することができませんでした。

今回の大会開催に向けては、宮城県内だけではなく、福島・山形等の事業所にも呼びかけ大会開催実行委員会を立ち上げ、多くの人の協力のもと進めたいと考えています。

16年ぶりの開催を通じて、様々な情報交換・交流を行い、改めて「共に生きる」とは「共に働くとは」等、多くの皆さんと活発に議論をし、共同連の東北さらには全国への波及を図り、地域のネットワーク強化や全国的なモデル形成につなげることを目的とします。

現段階で決まっている内容です。

8/29(土)午後

記念講演 朝日 雅也氏 (埼玉県立大学教授)

シンポジウム 各団体の方から今後の展望について話していただきます

齋藤 縣三さん (共同連代表)

赤松 英知さん (きょうされん常務理事)

松崎 伸一さん (手をつなぐ育成会事業所協議会理事長)

中崎 ひとみさん (全Aネット事務局長)

8/30(日)午前

分科会 第1分科会 共同連って何？

第2分科会 多様な共に働く

第3分科会 地域資源を活かした「働く」

第4分科会 共に学び暮らす

第5分科会 みんなで語り合おう、私たちの思い

発題者等が確定次第、呼びかけチラシを作成する予定です。大会開催には運営面でも資金面でも多くの方のご協力が必要です。引き続き実行委員会への参加をお願いするとともに、協賛金の募集もしたいと思ます。こちらのご協力もお願いします。

飯嶋 茂

なぜ障害福祉事業所の不正がなくなるのか？

—システム思考で考える2つの打ち手—

松木 知徳

毎年実施されている就労支援フォーラム。昨年の12月20日、21日の両日にわたり、東京ビッグサイトで開催され、関係業界から1,300人も参加者ととともに私も参加しました。

今回は「障害者総合支援法20年／光と影」というテーマでの開催となりましたが、事業を取り巻く「影」の部分に多くの時間が割かれました。不正受給や実体のない支援事業などの例が取り上げられ、「不正がなぜなくなるのか？」という重いテーマでの議論がなされました。私自身福祉事業に携わる者として、自身の責任も含め内省する時間が多くありました。そのうえで、福祉事業を次世代に引き継ぐうえで、ネガティブな要素を明らかにし、（誰かを断罪するためではなく）なぜこうした構造が生まれてしまうのかをみなさんと一緒に考えたいと思い、執筆することにしました。

社会保障費の爆増に対して工賃が向上していない理由

厚生労働省（2025）によれば、障害者福祉に関する社会保障費はこの19年で約4倍にも拡大しています。しかしながら、利用者の工賃はどれだけ向上しているのでしょうか？就労継続支援B型の工賃は2023年度から算定方式の改定により上昇しましたが、全体からすれば未だ生活に十分な収入を得られている状況にはありません。

ここ数年、営利法人の新規参入が相次ぎ、特に就労継続支援B型事業所では、社会福祉法人よりも営利法人の運営する事業所が多数となりました。もちろん、多様な背景や考えを持つ事業者が参入することは利用者にとってもメリットがあります。工賃の高さ、生活支援に関するサービスや個々の特性に合わせた仕事の提供など就労先の選択肢が増えること自体は歓迎すべきことであり、「競争原理」が働くことによって業界内のサービス向上が促進されていく側面もあります。

但し、それには市場に情報開示がなされ、利用者が自由に選択できる前提が必要です。残念ながら、ホームページやSNSを見ても得られる情報は限られており、利用者が一度選んだ事業所を変えるハードルは高いのが現状です。

『不正はなぜ蔓延(はびこ)るのか』という問いを直視する

フォーラムのセッションの中に「不正はなぜ蔓延するのか ～指定と指導のあり方を含め～」という衝撃的なパネルディスカッションのテーマがありました登壇者には元自治体の幹部職員、大手メディア記者、業界コンサルタントが参加していました。進行役から「障がい者ビジネスで儲けようと蔓延っている悪魔のような事業者がいる」という問

題提起がなされました。その一方で自治体の元幹部からは、行政として退出させることが難しく、「法律に則っている以上、条件が揃っていたら認可せざるを得ず、認めなければ訴訟になる可能性がある」「職員が思いを持ちながらも複雑な制度で最も残業の多い部署が障がい関係の部署になっている」という本音とも言える声に、公共性の高い事業が故の構造的な難しさを感じます。税金を投入している以上、個人の判断ではなく厳格なルールによる運用が必要となりますが、ルールの抜け道が作られると職員の判断では止めることができません。そして対応のために新たなルールを作ることになります。結果、サービス報酬が変更になる度に複雑化したルールを理解するエネルギーが大きくなっていきます。

社会構造からみた解決策「人を責めないアプローチ」

利益追求のみで倫理観のない事業者、調査や取り締まりができない行政、福祉への思いはあっても経営力で苦戦している事業者、自ら情報を収集し意思表示をしていない利用者…一体誰の責任なのか？混沌としたままこのテーマのディスカッションが続いています。

これには絶対解はなく、どんな解決策も実現は容易ではない前提ですが、この問題を大学院で講義を担当している「システム思考」で考えてみました。私は「事業者の情報還流」とそれを支える業界での経営者育成による「経営の質」の向上が急務ではないかと考えています。結果として利用者が「事業所の選別」が進めば、業界に「健全な競争」が生まれます。この因果をループ図で考えると図5のように表現できます。改善に必要なのは、「誰かが悪い！」という断罪のロジックではなく、人を責めないアプローチであると思います。

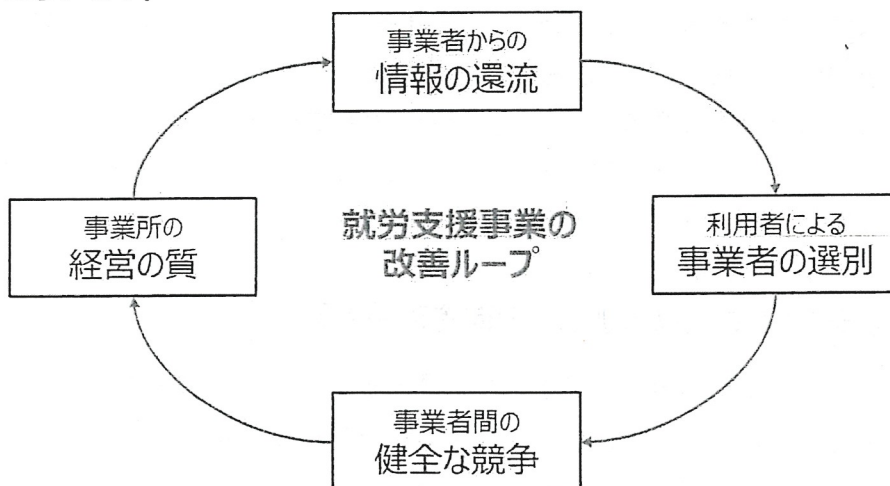


図5：就労支援事業の改善ループ

第一に、事業者の情報還流、つまり、事業者間・支援者・利用者の中で情報が循環する仕組み作りです。前述のとおり競争原理が働くためには「情報の非対称性」を解消する必要があります。つまり、情報を一部の関係者だけが持ち、利用者側が選択肢となる情報を持っていなければ正しく選択することができなくなります。例えば、就労事業所の工賃や作業内容だけでなく、利用者の平均年齢や就業期間、経営者の方針が示されていることで事業所選択の解像度はかなり上がるはずですが、私たちが一般に就職先を選択する際に当たり前に行っていることですが、現状、ホームページなどをみても情報開示が明らかに遅れています。また、支援学校や相談事業所がそれらの情報を持つことで、個々人の特性や環境に応じた就業先の選択を支援することができるようになります。

第二に、経営者の育成による経営の質の向上です。障がい者福祉事業は自身の家族に当事者がいて、経済力のある方が創業するケースが多くありました。無報酬に近い状況で尽力している経営者もいます。しかしながら、崇高な善意によって自身の社会貢献活動ができたとしても、後継者を育てることは極めて難しくなります。この業界で「儲けること」はある種タブー視されてきましたが、優秀な人材が価値に見合った処遇を受けることは否定されるべきではないと考えています。

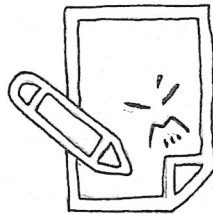
また、障がい者支援を行う職員の多くは困っている方々に寄り添いたいという強い思いで働いている一方で、自身が責任者として組織運営をしていきたいとは限りません。結果として、経営能力の高い人が福祉を正しく牽引していくことが難しい「社会構造」が固定化されてしまいます。そのため、福祉業界で正しく収益の上がる経営を志す人材を早い段階から育成、輩出することができれば、問題となっている事業者は自然に淘汰されるはずですが。

冒頭の繰り返しとなりますが、業界の不正に関するニュースを見るたびに、関係者の一人としてこの課題を次の世代に先送りしてはならないと感じます。一方、高い志を持ちながら、新たな福祉事業の在り方を目指す方にも多く出会いました。今回のフォーラムでは業界が積み残した「影」の部分だけでなく、トンネルを抜けた先の光となる兆しも多くありました。次回は光と影の「光」の部分に焦点を当てて執筆します。

松木知徳／(株)地域福祉ラボ代表、経営大学院准教授、元社会福祉法人理事長

社会福祉法人の経営をしていた時の施策や社会的な課題まで、noteで多くの記事を公開しています。皆様のリアクションやフォローが励みになります。宜しくお願ひします。QRはこちら👉





我が家 私のレポート

ひろむの妹

誰かが食べるとすぐ自分も手を伸ばす



(冷戦はじまる)

明けましておめでとうございます!
年越しの瞬間は全員がそれぞれお布団の中でした。
風情も何も無い我が家でした。

ガラス皿が割れたとき
すぐ飛び起きて来てくれた



(「すごいな...!」と言って戻った)

「ハート作る」と言ったら
やってくれたけど楕円だった



(面倒な妹の相手は大変!)

肘の打撲を見せたら
優しくふにふに触ってた



(心配いほしてくれた模様)

47都道府県の白地図を
やってもらったら満点だった



(才能アリ👍)

コッペでは、シール貝占りや在庫チェックやたがし在庫チェック表
や後はコッペの配達のお仕事を元気に頑張ります。

お昼ご飯は、お弁当をいっぱい食べます。新聞を一枚ずつ
いっぱいやりながらもう此一生懸命やります。

食べ物とかセブンイレブンのお買物を買いながらおやつ
とかカップ麺をいっぱい買います。午後もお散歩を

3メートルを一生懸命歩きます。頑張れよ、お父さん、お母
さん、義くん、僕、お姉ちゃんも家族5人いるの。大騒ぎは、

もうしないの。好きな食べ物は、カップヌードル、インスタントラーメン、うどん、そば、カレー、トマトジュース、フリンクルズのポテトチップス、

ファーストフード、ケンタッキーフライドチキン、サブウェイ、モスバーガー、

マクドナルド、パンセのパン、コッペのパンをいっぱい買います。

哲也の体重計は、なんと80kg~75kgを半分減らします。そして
夜8:00を過ぎたら食べるのはありません。

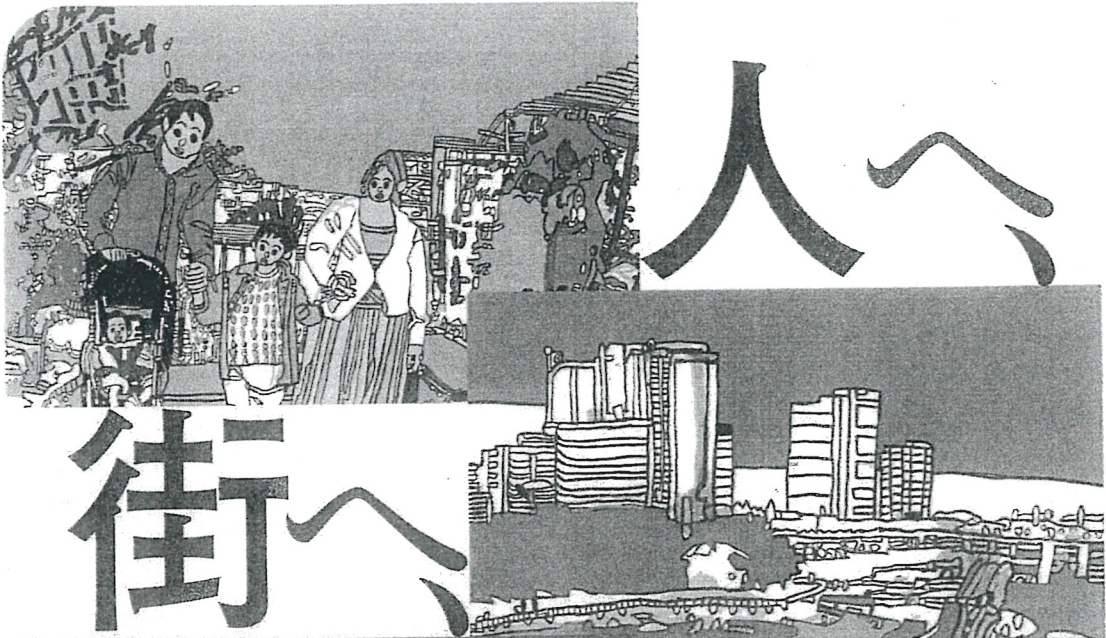
火曜日と金曜日は、朝から倉庫のゴミを出します。

仙台医療センターへ僕が昨年7月と10月に入院
をしました。そして8月と11月退院をしました。12月からコッペ

のお仕事復帰しました。病院でゆくりTVを見てました。

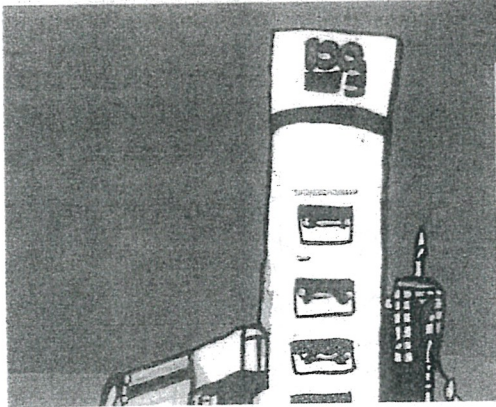
阿部 哲也。

多夢多夢舎中山工房の中島さんの絵が東急電鉄の車両のラッピングに採用され、東横線/田園都市線で各1編成が日々運行されているそうです。



人へ

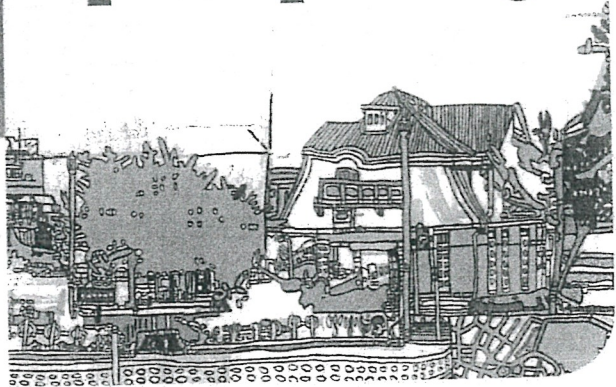
街へ



未来へ。

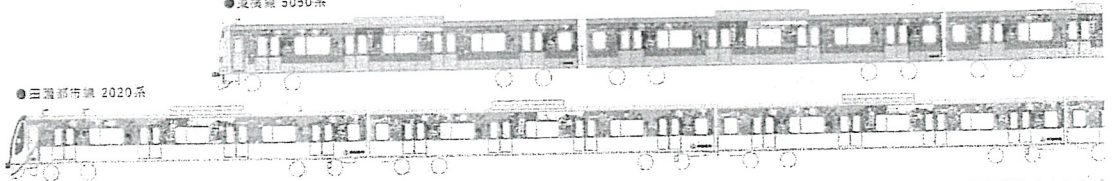
“彩りを描く特別な電車”

運行中



●東横線 5050系

●田園都市線 2020系



彩りを描く特別な電車 公式サイト

www.tokyu.co.jp/special/hitomachimirai-train/



東急電鉄

In Partnership With



HERALBONY

